

# メディア・リテラシー ファシリテーター養成講座PART2を実施

テレビ、新聞、雑誌などのメディア情報を主体的に読み解く力「メディア・リテラシー」。7月26日、27日の2日間、小・中学校の教員や子どもに関わる現場にいる方々を対象に、子どもたちがメディアを読み解く力をつけるためのワークショップ(体験型学習)のファシリテーター(進行役)の手法について学ぶ講座を実施した。

7/26木

1. テレビ/CM 講師:吉田清彦さん(コマーシャルの中の男女役割を問い直す会世話人)
2. マンガ 講師:門 晶子さん(小学校教員、男女平等をすすめる教育ネットワーク会員)

7/27金

3. 雑誌 講師:峯田美香さん(ジェンダーフリーをめざす会 アートフルD主宰)
4. テレビゲーム 講師:登 圭緯子さん(メディアとジェンダー研究会)

## 講座からのキーワード

### 1. テレビ/CM

・「繰り返し放映されるテレビ・CM」が気づかないうちに私たちのものの見方や考え方に大きな影響を与えている。

・メディアが送り出す情報は「真実すべて」でなく、作り手の視点で「切り取られた一部分」である。

・数十秒と限られた時間の中でのものを売るために、すべて計算づくでCMはつくられている。

「メディア・リテラシー」とは?その目的と現状について解説があった。

### 2. マンガ

・コンビニなどで手軽に購入でき、気軽に読めるということで、あらゆる世代の読者をもっている。

・マンガのキャラクターは子どもたちの生活に深く入り、「女の子」「男の子」の世界を二分している。

・女子中・高生向け週刊コミックは、ほとんどが「男性が愛する人、女性が愛される人」というステレオタイプの恋愛ストーリー。

繰り返し読み続けていくことで、ジェンダー意識が浸透していくのではないかと指摘があった。

### 3. 雑誌

・読み手にいかに「インパクト」を与えるか

は理屈よりイメージが全て。

・視覚効果をねらった誌面づくりのため、男性雑誌には女性のヌードが多い。

・女性雑誌には見られる存在としての自分づくり、異性を意識した記事がいかに多いか。

企画制作・デザイン現場での峯田さんの体験を交えての話。

### 4. テレビゲーム

・男性はたくましく、女性はか弱く描かれている。幼児向けソフトほどジェンダーが入っている。主人公のほとんどが男性。

・ゲームの中には女性がヌードになっていくようなソフトも少なくないが、テレビゲームは子どもの日常の遊びのひとつとなっている。

## ワークショップ〜ジェンダーの視点で読み解く体験学習

子どもたちがメディア・リテラシーを学ぶためのプログラムづくりの手法を学ぶために、グループに分かれ意見交換と発表を行った。

・「テレビ/CM」では実際にCMを見ながら「女と男の描かれ方」について性別



割分業は見られたか、などについて話し合った。子どもたちにテレビCMの仕組みを調べさせる、CMや番組の好き、嫌いとその理由を聞くなど、自身がメディアの歪みや偏りに気づき、考えることができるように導いていくことが大切と指摘された。

・「マンガ」「雑誌」「テレビゲーム」については、日頃親しんでいるマンガ、雑誌、ゲームの攻略本をジェンダーに敏感な視点でチェック。ターゲットは誰か、全体のイメージ、どんな話題・写真・広告等が使われているか。予想される作り手のねらいは?(表現方法などに隠されたメッセージを見抜く)これらの点に留意しながら話し合った。

「子どもたちが触れているメディアを頭ごなしに批判するのではなく、子どもに『これについてはどう思う?』などと声かけをしながら、子ども自身が考える習慣をつけるようにすること」という話で締めくくられた。各回とも、紙面では十分に紹介しきれないほど、充実した講座内容であった。

ドーンセンターではメディア・リテラシーへの理解を深め、講座の企画・実施に役立つ教材としてドーンハンドブック3「メディア・リテラシーとジェンダー」(A5版107頁 600円)を発行している。ご活用をおすすめしたい。

<内容>第1部 理論編 なぜメディア・リテラシーなのか

第2部 実践編Ⅰ メディアをジェンダーの視点で読み解く 実践編Ⅱ メディア・リテラシーの現場から

第3部 資料編

ドーンセンターで直接購入可。問い合わせ先/企画推進グループ TEL06-6910-8615

## ドーンと活動中/PART2 I

# レイプクライシスサバイバーズネット関西



上段:ニュースレター、「Cava(サヴァ)」(フランス語で「やあ!」「元気!」の意味)

下段:「つながることのできること」昨年実施した「つながりサポーター開発講座」の報告書

ドーンセンターを定期的に利用され、男女共同参画社会づくりへ取り組んでおられるグループの紹介です。

1998年12月に起こった2件の強姦事件をきっかけに、その被害者をサポートしようと集まった友人達が母体となって発足しました。具体的には、インターネットを通じた被害者支援に関する情報提供、警察・弁護士・病院・カウンセリングセンターといった関係専門機関とのネットワークづくりを行っており、支援活動の開始に向けて

準備中です。付き添いサポート体制の確立へ向けて、昨年に引き続き今年11月4日よりドーンセンターにて『つながりサポーター』開発講座を行います。(昨年の講座報告書は1部1,000円にて購入可)。ニュースレターは年4回発行しています。なお、相談などはまだ受け付けておりません。詳しくは団体のHP (<http://www5a.biglobe.ne.jp/~SURVIVOR/>)をご覧ください。